

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475102083
法人名	社会福祉法人 仙台市社会事業協会
事業所名	グループホーム楽庵
所在地 (電話番号)	仙台市青葉区葉山町8番1号 (電話) 022-273-4931
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 2 月 26 日

【情報提供票より】(20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	11 人, 非常勤 人, 常勤換算 9.1

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	6階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	○有(90,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84歳	最低	79歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木内科医院、北川歯科医院、中嶋病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北仙台駅の北西、仙山線に沿った小高い住宅街に位置する。ユニットタイプの特別養護老人ホーム「楽生園」や地域包括サービスステーション、地域交流プラザ、展望風呂を抱合した6階建ての1階部に「グループホーム楽庵」はある。入居者自身が自慢する最上階の展望風呂はトゴール鉱石を利用した準天然温泉で遠くの間々まで見渡せる眺望となっている。施設長の思いである「子ども、老人、障害者が交流できるスペースの拠点」「地域のセーフティネット」として、在宅から地域までを包括し、一般住民への福祉への啓蒙まで視野に入れた「ユニットケア施設群」である。グループホームではその人を尊重し適切なケアで本人の望む生活を提供することが大事と考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で特記事項はなかったが、評価をきっかけとして入居者の様態や症状について会話するときに、他の入居者に配慮することや通院予定者の表記はイニシャルにするなど改善した。堀炬燵は現在使用していないが雰囲気作りに撤去しないことにした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が各自自己評価を行なった。各々が各行動を客観的に捉え「気づき」の重要性を再認識できたようだ。職員が日頃読むことのない重要事項説明書を読み初心に返ることができたという。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>開所(平成17年12月)以来、通算4回の会議の開催をしている。会議ではホームでの行事など活動報告がビデオや写真で行なわれる。次いでホームが抱える課題が議題として示され、出席者から意見、助言をもらう。第4回会議では、避難訓練実施後に反省会で出た意見等をもとに、地域の協力体制の整備について各委員から意見や協力申し出の発言があった。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書には苦情相談窓口の記載がある。玄関には無記名で記入できる用紙を設置しているが、これまで投函はない。来所する家族からは会話の中で引き出す配慮をしている。他に入居者の家族に対してアンケートを実施したが苦情や不安の訴えは見られない。今後とも家族への対応については模索したいとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人が運営する同建物内の「地域交流プラザ」には地域住民が集い、自発的にボランティア活動を行っており、その活動範囲にグループホームもある。入居者がボランティアと親しくなり、対個人での近所付き合いになりつつある。「展望風呂」は地域住民に開放されており、入居者もエレベーターを使って自由に交流できる環境にある。町内会への加入も考えており、近隣住民との連携を図る協力体制「見守り隊」の結成を進行中だ。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えた理念は、「絆・和・希・笑」の四文字に象徴されている。家族・地域との絆を深め地域の中でこれまでの生活を続け、ひとりひとりの生活リズムを大切に家庭的な居場所を作り、自分らしさと自信を持って、「今」を大切に笑顔溢れる生活を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議は理念の文章を掲げて行なっている。日々の生活に理念が生かされているかを念頭に、ケース検討やケアプランなどの基幹になるものと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として生活することが大事と考えている。「地域交流プラザ」で開催される事業に集まる近隣住民と交流することはできるが、参加するのは一部の入居者に限られる。ボランティアの受け入れはあるが、地域の行事に参加することがなかった。「見守り隊」の組織化と同様に、町内会への加入と参加などについて今後は検討いただきたい。		
あき					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価以外にグループホーム協議会の評価活動にも取り組んだ。前回の評価で改善の指摘はなかったが、各職員が自己評価をきっかけにケアを客観視して考えるようになった。入居者の様態や症状について会話するとき他の入居者に配慮したり、堀炬燵を利用する入居者はいないが、雰囲気づくりに撤去せずに置くことにした。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の第4回運営推進会議では、ホームでの出来事などをビデオと写真で報告した。議題としては過日実施された「避難訓練(夜間想定)」での反省点や課題を取り上げて、各委員から意見や協力案が出された。地域との連携による「見守り隊」の結成に弾みがついたようだ。ホームでは3ヶ月に1度の開催予定なので実行に努力していただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業方針の中に「地域社会への貢献活動」をうたっている。組織の特性から、包括支援や啓蒙活動など市とのやりとりは事務局が行なっている。認知症の指導者である施設長が市から委託を受けて各種教室や講習会、勉強会、研究会へ派遣されることは数多くある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は入居者ごとに担当制になっており、入居者の近況報告は担当職員が電話にて行なう。月に1度の通院があったときに報告されることが多い。預かっている金銭については家族の来所時に出納簿を見てもらい確認してもらい、写しの交付はない。職員の異動等については広報紙に掲載するが、家族に直接伝えることはない。	○	事業内容を知らせる広報紙はあるが発行の間隔が長期的なとユニットケア施設群広報になっているので、家族への近況報告としては不足である。金銭出納や通院、生活状況、職員の異動などの報告は、家族にその都度適時知らせるのが望ましい。家族の安心、信頼を深めるためにも毎月、定期的に、文書にて伝えることに努めていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やアンケートで意見・要望の収集に努めているが、現在のところ皆無である。なお、重要事項説明書に第三者委員を記載することを決めている。また、ホームの行事への家族参加を積極的に勧め、信頼関係を築き、家族の忌憚のない意見をもらうために良い方策はないか模索中とのことなので期待したい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が決まった段階で、異動する職員と新入職員がいっしょに行動しながら入居者の特性や生活リズムを覚える期間をもっている。担当の入居者が新入職員に馴れ難い場合は担当を替えるなどして対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受ける際には勤務扱いにする措置がとられ、勉強しやすい環境ができています。法人内では採用時のほか、研修委員会による継続研修も年1回行なわれている。月例の職員会議では外部研修の報告やケース検討において、認知症の指導者である施設長が指導する場面もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の活動・交流を通して、他施設の見学を行なった。今後の考えとしては当ホームの持つ課題について、実際に経験したホームの話を見聞して学びたいという。当面は「看取り」についての参考施設を探しているところだ。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在のところ開設以来、新規入居の経験はない。今後ありえる新規入居の際には、調査の訪問も含めて複数回の訪問を重ね、その上でホームを見学してもらい雰囲気に馴染んでもらうようにしたいと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理をしたことのない職員が入居者に教えられて料理ができるようになったことや花壇作り、畑を耕作するときは入居者が傍らで助言し職員が耕した事など随所に支えあう関係がみられる。生け花の知識や実技を知ったのも入居者からである。戦時中の苦労話を聞いて日本の昔の生活をじかに感じる事ができたという。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人の話の中から生活歴を知るように努め、それらを参考にしている。意志表示が困難な入居者の場合は態度や顔の表情を観察して推察するように努めている。入居者のペースに合わせた生活を大切に可能性を信じて働きかけをし、引き出すようにしているという。今後、東京センター方式の導入も考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月例の会議で、通院時の医師の意見や来訪時の家族の話など情報の共有を図っている。プランにはそれらを統合して生かしている。また、日常では「申し送りノート」を活用してケアの提言も行なわれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成担当者は、全職員とのつながりも持ちコミュニケーションが取れている。月毎のケースミーティングで各入居者について話し合わせ、家族の要望も聞き、入居者の変化に応じた計画変更が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診は家族に付き添ってもらうが要望があれば職員が対応することもできる。入居者に変化が生じて受診する場合は職員が付き添う。個別に対応した外出(ふるさと参りや食事、観光)が可能である。リハビリに通う、デイサービスに遊びに行くなど入居者のしたいことを制限しない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医が遠方の場合、通院を考慮して家族や入居者の希望を聞きながら近場の医療機関を紹介することもある。そのときは前かかりつけ医から情報提供表をもらい、引継ぎを密に行なう。継続してのかかりつけ医への通院もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化について配慮が必要な入居者も見られる。ミーティングのさいに職員間でホームとしての方針など話し合っている。しかし、本人の希望を聞いたり家族や主治医を交えての話し合いはない。今後、「看取り」の経験を持つホームなどを参考に勉強したいと考えている。	○	重度化については、本人、家族、主治医そして職員が話し合って文書化し、全員で方針の共有を図られることを望む。また、終末期についても視野に入れ、状態の変化に応じた話し合いを繰り返されたい。ホームとして「重度化対応」「看取りの指針を整備する」ことをうたっており、配慮すべき入居者が居ることからも早急に整備していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排尿の促しや失禁があったときは他の入居者に悟られないような言葉掛けをするように配慮している。病院への通院表へ記載する氏名はイニシャルを用いる。業務日誌の記入は入居者の目に触れない場所で書く。個人情報などの文書は事務室にて施錠管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、散歩、入浴、就寝など入居者のしたいように過ごせている。陶芸や生け花、貼り絵、歌などを趣味として楽しめるように働きかけ、入居してから趣味となり夢中になった入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者で献立を考えることもある。配膳、下膳を積極的に行なう姿が見られた。季節や行事などに合わせたアイデアが入居者から出され、誕生日のケーキも手作りで楽しむ。職員は入居者の好みを把握し、苦手な食品は代替する。家族からの差し入れなどがあり、入居者と相談しながら献立やおやつに加えている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同施設内の6階にある展望風呂を気に入って一日に数度入浴する入居者もいる。ホームでは重度化しての特浴も可能であり、季節湯なども楽しんでもらっている。浴槽の形状や手摺の設置も適切で快適な入浴を思わせる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度、自室の掃除、洗濯物たたみなど入居者の状態に応じて行なっている。昔のことや興味のあることを探り働きかけている。暖かいときは畑作りなどを一緒に楽しんでいる。施設内の「地域交流プラザ」で開催される教室への参加も可能である。重度の入居者へは見当識を刺激するような働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の中で散歩などは自由にできている。意志表出の困難な入居者の場合は、買い物に誘って外出するようにしている。月に1度は全員で外出する機会をもっている。行事としての外出では観光のほかに初詣やページの見学など多彩になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望がある入居者、外出好きの入居者、ともにいるが、施錠はしない。安全を考慮して開閉ベルは設置している。帰宅を望むときは職員同伴で自宅まで行くなどして、本人が納得して落ち着くような工夫をしている。災害時などにも発揮されるだろう「見守り隊」の発足を隣近所との連携で進めつつある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同建物の法人が連携して行なう訓練は年に2回行なわれるが、その他にホーム独自で夜間を想定した避難訓練が行なわれている。反省会での意見を運営推進会議に提出して助言や協力をももらった。今後、近隣住民との連携で「おぶり隊」「見守り隊」結成の取り組みをしていくという。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ひとりひとりについて食事の摂取量や水分の摂取量、排便の有無などをシートに書いてチェックしている。食事の献立は管理栄養士によるバランスの摂れたものになっている。便秘予防にオリゴ糖やラジオ体操で工夫をしている。体重測定は月に1回する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掘り炬燵のある畳敷きのスペースと、フローリングにソファを置いたホールとがあって、両方にテレビはあるのだが全入居者がホールが好きなようでそこに集まっている。自室で過ごすのは夜だけのようだ。どの部屋も大きな窓で自然の採光が心地よい。食堂に貼られた手作りの大きなカレンダーは分かり易くなっている。華やかな生け花は入居者の手によるものだ。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室とも入り口が開け放たれているのが印象的だ。信頼関係ができていくことがうかがえる。和室と洋室があり、全室に加湿器が置いてある。自室には観葉植物、TV、揺り椅子、ベッド、タペストリー、本箱など思い思いのお気に入りを持ち込まれて、個性的であり居心地も良さそうだ。		